

項 目 名	頻繁なオムツいじりによる失禁に対して手が入らないようなテープ止めオムツを使用する。
表 題	オムツいじりの原因を明らかにして精神的拘束廃止
施 設 名	老人保健施設『たかのご館』（介護老人保健施設）

1 利用者の状況

【病名（既往症）及び病状】

多発性脳梗塞・高血圧症

2 施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

●尿意・便意は不明確、日中紙パンツにパット使用。ADL 一部介助、杖歩行

【痴呆の状況】

●見当職障害、記名力低下あり、痴呆ランク

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

日中と同じく紙パンツとパット使用していたが自分で手を入れることにより夜間の失禁が頻繁にみられたので手が入らないようテープ止めオムツを使用し固定した。(外すことは可能)

4 ケアカンファレンスでの意見や協議内容

●排泄による不快感があるのではないか、痴呆のためによるものか、オムツの素材に問題はないか、オムツの重ね付けをしていないか、皮膚に異常がないかなど、排泄ケアの課題を検討する。

5 拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

日中は声かけにより、時間毎のトイレ誘導を実施する。夜間はポータブルトイレを設置し、テープ止めオムツカバーをやめポータブルトイレにし時間毎に座ってもらう。夜間の睡眠を考慮し可能な限りの時間延長（ポータブルトイレに座る間隔を延長）を試みた。本人の排尿パターンを把握するため、根気よく対応していく。

6 改善の成果

オムツいじりの回数が少なくなり、夜間もぐっすり眠るようになってきた。

7 担当職員の感想、意見

安易に職員サイドでオムツの使用を決定するのではなく、原因を明らかにして、本人の精神的な関わりを理解し受容する事が大切だと思った。